

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 13年8月) ～物価上昇の裾野が徐々に広がる

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コアCPI上昇率は3ヵ月連続のプラス

総務省が9月27日に公表した消費者物価指数によると、13年8月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI)は前年比0.8%(7月:同0.7%)と3ヵ月連続のプラスとなり、上昇率は前月から0.1ポイント拡大した。事前の市場予想(QUICK集計:0.7%、当社予想は0.8%)を上回る結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.1%(7月:同▲0.1%)、総合は0.9%(7月:同0.7%)となった。

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
12年 4月	0.4	0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0
5月	0.2	▲0.1	▲0.6	▲0.5	▲0.8	▲1.3
6月	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲1.0
7月	▲0.4	▲0.3	▲0.6	▲0.8	▲0.6	▲1.0
8月	▲0.4	▲0.3	▲0.5	▲0.7	▲0.5	▲0.9
9月	▲0.3	▲0.1	▲0.6	▲0.7	▲0.4	▲1.1
10月	▲0.4	0.0	▲0.5	▲0.8	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.2	▲0.1	▲0.5	▲0.5	▲0.5	▲0.9
12月	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲1.0
13年 1月	▲0.3	▲0.2	▲0.7	▲0.5	▲0.5	▲0.9
2月	▲0.7	▲0.3	▲0.9	▲0.9	▲0.6	▲1.0
3月	▲0.9	▲0.5	▲0.8	▲1.0	▲0.5	▲0.8
4月	▲0.7	▲0.4	▲0.6	▲0.6	▲0.3	▲0.7
5月	▲0.3	0.0	▲0.4	▲0.2	0.1	▲0.3
6月	0.2	0.4	▲0.2	0.0	0.2	▲0.4
7月	0.7	0.7	▲0.1	0.4	0.3	▲0.4
8月	0.9	0.8	▲0.1	0.5	0.4	▲0.4
9月	—	—	—	0.5	0.2	▲0.3

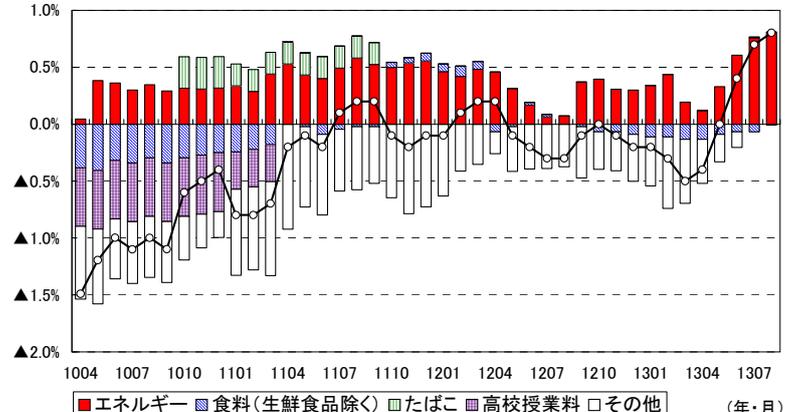
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コアCPIの内訳をみると、電気代(7月:前年比10.1%→8月:同8.9%)の上昇幅は縮小したが、ガス代(7月:前年比3.5%→8月:同3.6%)、ガソリン(7月:前年比10.5%→8月:同13.2%)、灯油(7月:前年比10.0%→8月:同11.8%)の上昇幅がいずれも拡大したため、エネルギー価格の上昇率は7月の前年比8.7%から同9.2%へと高まった。

また、原材料価格の上昇等を受けて食料品(生鮮食品を除く)が前年比0.0%となり、1年ぶりにマイナス圏を脱した。

コアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.81%(7月は0.76%)、食料品(生鮮食品を除く)が0.00%(7月は▲0.07%)、その他が▲0.01%(7月は0.01%)であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

## 2. 物価上昇品目数が大幅に増加

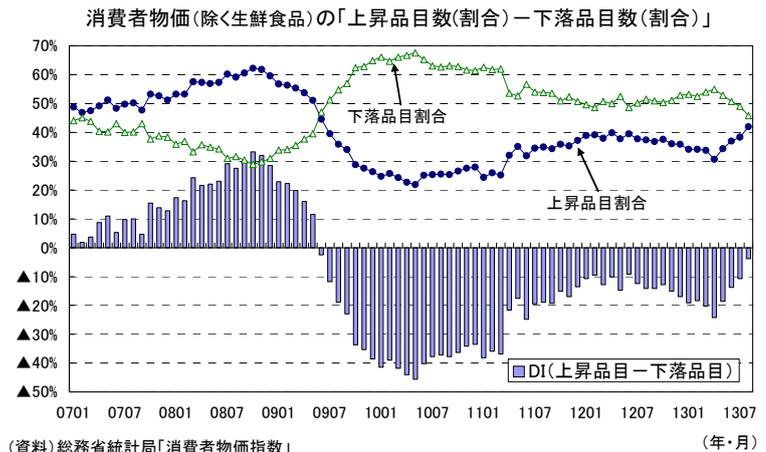
消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、8 月の上昇品目数は 220 品目（7 月 201 品目）、下落品目数は 240 品目（7 月は 257 品目）となり、上昇品目数が 4 ヶ月連続で増加した。

上昇品目数の割合は 42.0%（7 月は 38.4%）、下落品目数の割合は 45.8%（7 月は 49.0%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲3.8%（7 月は▲10.7%）であった。

直近 4 ヶ月で物価上昇品目数が 59 品目増加する一方、下落品目数が 48 品目減少したため、両者の差はここにきて急速に縮小している。

8 月に下落から上昇に転じた主な品目は、小麦粉、冷凍調理ピラフ、冷凍調理ハンバーグ、調理カレー、野菜ジュース、すし（弁当）など調理食品も含めた食料が多いが、それ以外にも浴用剤、乾電池、フィットネスクラブ使用料などが上昇に転じた。

8 月の上昇率は 0.1 ポイント拡大したにすぎないが、物価上昇の裾野が徐々に広がっていることを示したものとと言えるだろう。



## 3. コア CPI 上昇率は年末にかけて 1%程度まで拡大へ

13 年 9 月の東京都区部のコア CPI は前年比 0.2%（8 月：同 0.4%）となり、上昇率は前月から 0.2 ポイント縮小した。事前の市場予想（QUICK 集計：0.3%、当社予想も 0.3%）を下回る結果であった。電気代の上昇幅が大きく縮小（8 月：前年比 13.9%→9 月：同 5.6%）し、エネルギー価格の上昇率が 8 月の前年比 10.8%から同 6.3%へと大きく縮小したことがその主因である。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.40%（8 月は 0.66%）、食料品（生鮮食品を除く）が 0.04%（8 月は 0.00%）、その他が▲0.24%（8 月は▲0.25%）であった。

9 月の東京都区部の結果からすれば、全国のコア CPI 上昇率も 9 月以降はいったんプラス幅が縮小する可能性が高い。ただし、エネルギー価格の上昇率は引き続き高止まりすること、食料品を中心に原材料価格の上昇を価格転嫁する動きが続くこと、13 年度中は消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあり需給バランスのさらなる改善が見込まれることなどから、コア CPI の上昇率は年末にかけて 1%程度まで高まることが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。